

はじめに

「世界の核弾頭データポスター」 しおり

世界の核弾頭データポスターは、およそ13,880発もの核弾頭が存在する私たちの住む世界の現状を、核弾頭の保有国別・種類別に、わかりやすく図示したものです。小学生から大人まで、多くの方に役立つことを願い、核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)と長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)が2013年に製作を始めました。8月の広島・長崎の原爆忌に向けた平和教育に役立てられるように、毎年6月に最新情報に更新して発表しています。

ポスターのもととなった詳細なデータは、RECNAのスタッフを含む専門家によって構成される「核弾頭データ追跡チーム」が作成したもので、ホームページ(http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nuclear1/nuclear_list_201906)で公開しています。さらに詳しい内容を知りたい方はそちらをご覧ください。データは随時更新しています。

この「しおり」は、ポスターを手に取った皆さんの理解の一助となることを願い、背景情報や専門用語をできるだけ平易に解説しています。とりわけ、学校などの教育現場で活用していただければ幸いです。

2019年6月
核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU-NC）
長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）

お問い合わせ

核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC)

〒 852-8521 長崎市文教町 1-14

Tel: 095-819-2252 Fax: 095-819-2165

<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu>

美蘇、俄羅斯兩國的首都莫斯科和列寧格勒，是世界各國的文化中心。文化、藝術的攝影以蘇聯為最多。蘇聯在世界文化藝術方面有巨大的成就。蘇聯的電影、文學、音樂、舞蹈、美術、建築、戲劇等都有很高的藝術水準。蘇聯的文學家、電影導演、美術家、音樂家、舞蹈家、建築家等都是世界聞名的。

국내외에서 주목받고 있는 경쟁력 있는 기업으로서, 기술 혁신과 글로벌 시장 진출을 위한 전략적 투자를 강화하고자 합니다. 특히 디지털 혁신 분야에서 혁신적인 기술을 확보한 기업으로서, 글로벌 시장에서 경쟁력을 확보하기 위해 노력하겠습니다.

2017年7月8日、機器を全面的に禁止する法律が施行された。禁制法は、国際人道法の國際公約に違反する行為を罰するための法律である。禁制法は、武器の開発、保有、使用と使った後の破壊力、機器を用いた軍事行動の開発、実験、保有、使用による傷害を禁止する。禁制法は、武器の開発、実験、保有、使用による傷害を禁止する。禁制法は、武器の開発、実験、保有、使用による傷害を禁止する。

機器如何工作？

Q4. 機具器算止藥物力擇抗之方法之幾？

ミルヘルム6世の即位式典は、1861年1月16日、柏林の王宮で開催された。この儀式は、普魯士の統一と強化を象徴する大規模な祝賀行事となってしまった。儀式では、ミルヘルム6世が皇帝としての権威を宣誓し、國旗が掲げられ、軍隊が行進するなど、華やかなパレードが行われた。また、儀式終了後には、王宮周辺で大規模な祝賀会が開かれた。この祝賀会では、多くの賓客が招かれ、豪華な食事や娛樂が楽しめられた。一方で、儀式には、ミルヘルム6世の父である前皇帝フリードリッヒ・ヴィルヘルム3世の死後、王室に深刻な財政難があり、儀式の費用が莫大だったことから、一部では非議的意見もあつた。

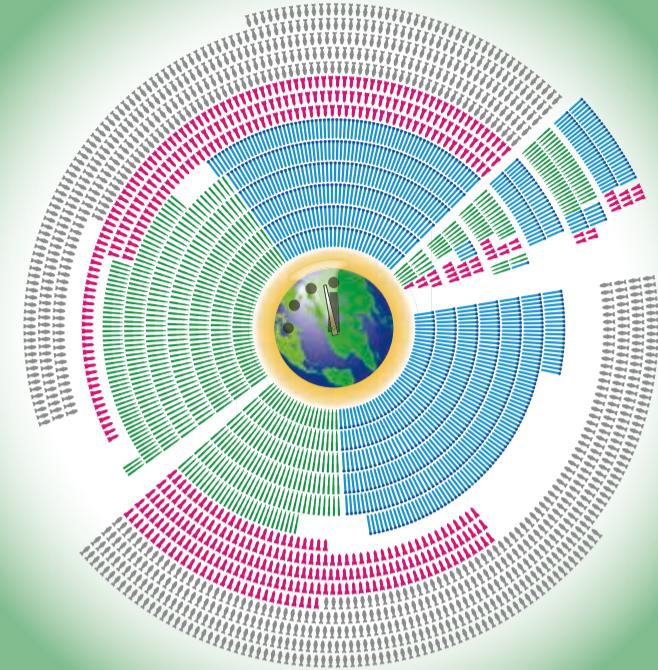
Digitized by srujanika@gmail.com

Q3. 非機械的器具

世界の現実です。そのため、この段階で最も重要なのは、資源的有效利用と技術革新による生産性向上です。また、労働供給の柔軟化や労働時間の短縮化も、効率的な生産を実現するための重要な要素です。

「北極圖のノルト・カーデ」は最も美しい地図で、世界地図の3,800倍もの威力を持つ。

世界の核弾頭 データポスター



13,880

核兵器廃絶 長崎連絡協議会 PCU-Nagasaki Council



四乙：「鐵共體」？「原子鑽子」？

次回、長崎の原子爆弾空投下の次の日、太田知事から
C11号機とB29爆撃機で亡くなった。この機体は
爆撃機力で投下された形の核爆弾の他に、過去74
年の間伝染病、麻疹やルバウ病などの疾患を
多くの患者に感染させた。このように、この事件は
世界の歴史に大きな影響を与えた。

FAA 품질인증

米国が90%以上を保有

核弾頭を保有しているのは、米国、ロシア、フランス、英国、中国、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮の9カ国です。

うち、米国から中国までの5カ国は、核不拡散条約（NPT）上で「核兵器国」と定義されている国です。NPT交渉時にすでに核実験を終えていたからです。インド、パキスタン、イスラエルの3カ国はNPTの枠外で核保有をしています。北朝鮮は2003年にNPT脱退を宣言しました。

茶色の点線で扇型に囲った面積でわかるように、米国とロシアの保有数はほぼ等しく、2国で約91%を保有しています。両国の保有する核ミサイルの多くは数分で発射可能な「高い警戒態勢」に置かれており、偶発的な事故等で核兵器が使用される危険性と、私たちは今でも隣り合わせに生活しているのです。ポスターではこれらを地球に近いところに配置し、米国の保有状況が比較できるようになっています。

核弾頭の運搬手段とその種類

ポスターは、使用される発射台や運搬手段の種類によって、核弾頭を以下の3つに分類して表示しています。それぞれのアイコンは弾頭5つ分です。

潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)など海洋配備用の核弾頭

ことば「潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)」
潜水艦に装備された発射管から発射される弾道(おおむね放物線を描く)ミサイルのこと。

大陸間弾道ミサイル(ICBM)など地上配備用の核弾頭

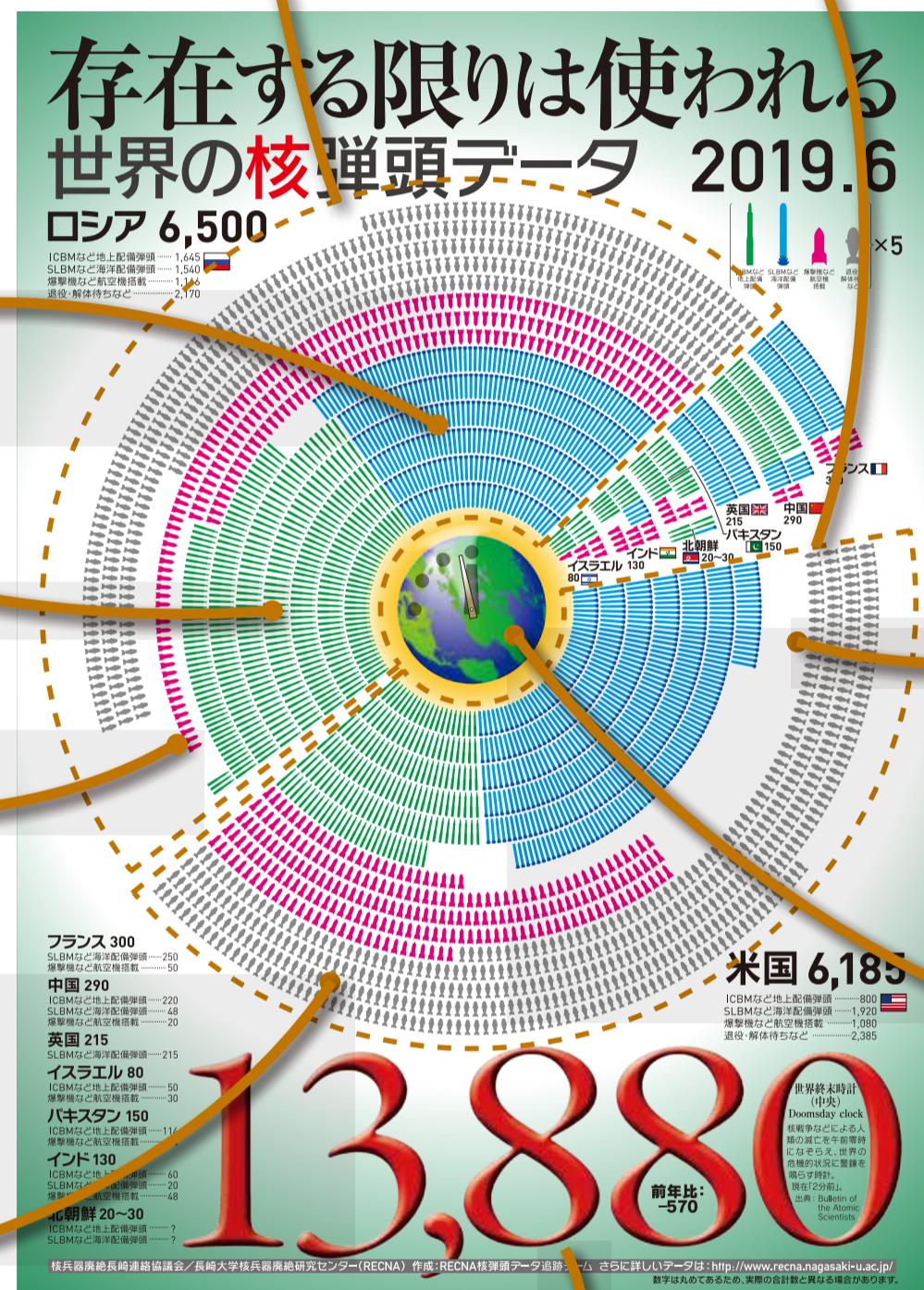
ことば「大陸間弾道ミサイル(ICBM)」
地上から発射される射程距離5,500キロメートル以上の弾道ミサイルのこと。

爆撃機など航空機搭載用の核弾頭

●●●には、「作戦配備の戦略核弾頭」「作戦配備の非戦略核弾頭」「作戦外貯蔵」の核弾頭が含まれます。

ことば「作戦外貯蔵の核弾頭」
作戦配備はされていないが、将来の使用の可能性を想定して貯蔵している弾頭。

ポスターでは、上記に加えて、「退役・解体待ちなど」の分類を設けています。これは、軍用任務から退役し、解体を前提に保管されている核弾頭ですが、再利用を完全に否定することはできません。



世界の核弾頭の総数はおよそ13,880発

2019年6月現在、地球上に存在する核弾頭の総数はおよそ13,880発です。核兵器に関する情報は一般的に国家の軍事機密であり、いずれの国も詳細なデータを公表していません。したがって、この問題に取り組む研究者や専門家は、さまざまな角度からの情報を基に、各国の保有核兵器の数や種類、配備状態を推察しています。本ポスターも、そうしたさまざまな情報源からのデータを精査して作られたものです。

13,880という数字に皆さんはどういう印象を受けるでしょうか。冷戦のピーク時（1987年）には、世界に7万発近い核弾頭が存在しました。それに比べると核弾頭数は大幅に減っています。

米国は2011年2月に発効した新STARTという条約において、それぞれが保有する作戦配備の戦略核弾頭の数を1,550以下に削減することを約束し、2018年2月の期限までに両国ともその目標をクリアしました。しかしこれは実際には米国で数百発の削減に過ぎず、ロシアにいたっては条約発効時点ですでに目標を達成しているなど、保有核弾頭の大幅削減には程遠いものです。ウクライナ問題やシリア問題をめぐる米ロ関係の悪化もあり、新START条約の延長や後継条約に向けた議論は進展していません。

米トランプ政権は、ロシアや中国の脅威を理由に核抑止強化の必要性を公然と掲げ、より使いやすい新型核の開発に進む意向を明らかにしています。これに呼応する形でロシアも核戦力増強に向かっています。二国間や多国間の軍備管理体制は大きく揺らいでおり、核軍拡競争の激化が懸念されています。

ことば「作戦配備の核弾頭」
部隊に配備・貯蔵され、そのまま使用できる状態に置かれている核弾頭のこと。

ことば「戦略核」
戦略上重要となる敵国の都市や主要軍事施設などに対する攻撃を目的とした兵器に搭載される核兵器。他方、より限定した地域的戦争の目的に使われるものを「非戦略核」という。「非戦略核」には「戦術核」「戦域核」と呼ばれるものがある。

ドイツやイタリアにも核爆弾

米国の保有する非戦略核弾頭（約150発）が、北大西洋条約機構（NATO）軍用として、ヨーロッパ5カ国（ベルギー、ドイツ、イタリア、オランダ、トルコ）に現在でも配備されています。まさに冷戦の遺物であり、撤去を望む声はヨーロッパ内外で高まっていますが、まだ実現されていません。

人類滅亡のときまであと「2分」？

ポスターの中央の地球には「終末時計」が描かれています。これは、米国の権威ある専門誌「原子科学者年報」が1947年から継続的に発表しているので、核兵器使用などによる人類滅亡を午前0時になぞらえ、それまでの残り時間で世界の危機的状況を象徴的に示す試みです。

世界が最も「終末」に近づいたのは、1953年、ソ連が水爆実験に成功したときの「2分前」でした。2018年1月、時計の針はそのときと同じ「2分前」に進み、現在もそのままです。核使用リスクの増大、核保有国による核近代化の動きなどを背景に、私たち人類は極めて大きな危機に直面していると専門家らは警鐘を鳴らしています。

しかし、その削減のスピードは非常にゆっくりとしたものであり、地球上の生物すべてを複数回殺しうるという「オーバーキル」状態は現在でも変わっていません。

昨年（2018年6月）の核弾頭数は14,450発でした。つまり、数字上では、一年のあいだに570発が減ったことになります。しかし、単純に喜べる状況ではありません。9つの核兵器保有国は、いずれも核兵器近代化の計画を着々と進めています。今ある核兵器システムが旧式になっていくなかで、新しい高性能のものに一新していくという計画です。そのために莫大な予算がつき込まれていることにも注意すべきです。